

支拂ハ爲メテ之ヲ註記シ(千九百二十二年二月八日ノ法律ヲ以テ廢止)

爲替手形ノ振出人ハ第三者又ハ自己ノ指圖人ニ支拂フヘキモノトシテ之ヲ振出スコトヲ得

爲替手形カ一號、二號、三號、四號等數通アルトキハ其ノ番號ヲ記載スルコトヲ要ス

爲替手形ニハ式ノ第百一十一條

爲替手形ハ個人ニ宛テ之ヲ振出シ第三者ノ住所ニ於テ支拂フヘキモノトスルコトヲ得

爲替手形ハ第三者ノ指圖竝ニ計算ニ於テ之ヲ振出スコトヲ得

爲替手形ハ式ノ第百一十二條(千八百九十四年六月七日ノ法律)

名又ハ身分ヲ假設シテ記載シタル爲替手形ハ之ヲ通常ノ契約書ト看做スヘシ

第百一十三條(千九百二十二年二月八日ノ法律ヲ以テ廢止)

第百一十四條

商人ニアラサル未成年者カ署名シタル爲替手形ハ其ノ未成年者ニ關シテハ之ヲ無効トス但民法第千三百十二條ニ定メタル當事者ノ權利ヲ妨クルコトナシ

第一章 第百一十一條 手形資金

第百一十五條(千八百十七年三月十九日ノ法律)

手形資金ハ振出人又ハ振出ヲ委託シタル第三者之ヲ供スルコトヲ要ス、但振出人ハ第三者ノ爲メニ爲替

手形ヲ振出シタルトキト雖モ其ノ裏書人及ヒ所持人ニ對スル手形上ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第百一十六條

手形資金ハ支拂人カ爲替手形ノ満期日ニ於テ振出人又ハ振出ヲ委託シタル者ニ對シテ手形金額ニ下ラサル債務ヲ負擔スルヲ以テ足ル

(千九百二十二年二月八日ノ法律)

手形資金ノ所有權ハ當然爲替手形ノ連續ノ所持人ニ移轉スルモノトス

第百一十七條

引受ハ手形資金ノ存在ヲ推定ス

手形資金ノ有無ニ付キ爭アルトキハ引受ノアリタルト否トヲ問ハス振出人ハ支拂人カ満期日ニ於テ手形

資金ヲ有セルコトヲ證明スルコトヲ要ス、若シ振出人カ之ヲ證明スルコト能ハサルトキハ拒絕證書カ一定

ノ期間後ニ作成セラレタリト雖モ振出人ハ右手形ヲ保證スルノ義務ヲ有ス

第三章 第三款 引受

爲替手形ノ振出人

爲替手形ノ振出人及ヒ裏書人ハ引受及ヒ満期日ニ於ケル支拂ニ付キ連帶保證人タルヘシ

第百一十九條

引受ノ拒絶ハ引受拒絶證書ト稱スル證書ニ依リテ之ヲ證明スヘシ

第二百十條

裏書人又ハ振出人カ引受拒絶證書作成ノ通知ヲ受ケタルトキハ滿期日ニ於ケル爲替手形ノ支拂ヲ確ムルカ爲メ保證ヲ立テ又ハ手形金額並拒絶證書ノ作成及ヒ戻爲替ノ費用ヲ償還スルコトヲ要ス

振出人又ハ裏書人ノ保證ハ保證ヲ立テタル者トノミ連帶責任ヲ有スルモノトス

第二百十一條

爲替手形ノ引受人ハ其ノ手形金額ヲ支拂フ義務ヲ負フヘシ
振出人カ破産セルコトヲ知ラスシテ爲シタル引受ト雖モ引受人ハ右引受ヲ取消スコトヲ得サルモノトス

第二百十二條

爲替手形ノ引受ヲ爲スニハ署名スルコトヲ要ス

引受ハ『引受』ナル文字ヲ記載シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

一覽ノ日ヨリ一日若クハ數日又ハ一月若クハ數月ヲ經過シタル日ニ支拂フヘキ爲替手形ニ在リテハ引受ノ日附ヲ記載スヘシ、右ノ場合ニ於テ其ノ日附ヲ記載セサリシトキハ滿期日ハ其ノ振出ノ日ヨリ之ヲ計算ス

第二百十三條

引受人ノ居所地ト異ル場所ニ於テ支拂フヘキ爲替手形ノ引受ニハ支拂ヲ爲スヘキ又ハ手形上ノ手續ヲ爲スヘキ場所ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百十四條

引受ニハ條件ヲ附スルコトヲ得ス、但引受ハ手形金額ノ一部ニ付キ之ヲ爲スコトヲ得
前項但書ノ場合ニ於テハ所持人ハ其ノ殘額ニ付キ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

第二百十五條

爲替手形ノ引受ハ其ノ呈示ニ際シ又ハ遅クトモ引受ノ呈示後二十四時間内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

引受ノ有無ヲ問ハス支拂人カ引受ノ呈示後二十四時間内ニ手形ヲ返還セサルトキハ所持人ニ對シ損害賠償ノ責ヲ負フヘシ

第四款 參加引受

第二百十六條

引受拒絶證書ノ作成アリタルトキハ第三者ハ振出人又ハ裏書人ノ爲メ爲替手形ノ參加引受ヲ爲スコトヲ得
參加引受アリタルトキハ拒絶證書ニ其ノ旨ヲ記載シ參加人之ニ署名スヘシ

第二百十七條

參加人ハ遲滞ナク被參加人ニ參加引受ヲ爲シタル旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第二百二十八條

參加引受アリタルトキト雖モ爲替手形ノ所持人ハ支拂人ノ引受拒絶ノ爲メニ振出人及ヒ裏書人ニ對シテ有スル一切ノ權利ヲ失フコトナシ

第五款 満期日

第二百二十九條

爲替手形ハ左ノ満期日ヲ以テ之ヲ振出スコトヲ得

一覽ノ日

一覽ノ日ヨリ一日若クハ數日、一月若クハ數月、一慣習期若クハ數慣習期ヲ經過シタル日

振出ノ日附ヨリ一日若クハ數日、一月若クハ數月、一慣習期若クハ數慣習期ヲ經過シタル日

確定セル日

市日

第三百十條

一覽拂爲替手形ハ呈示ノトキ之ヲ支拂フコトヲ要ス

第三百十一條

一覽ノ日ヨリ一日若クハ數日、一月若クハ數月又ハ一慣習期若クハ數慣習期ヲ過經シタル日ニ支拂フヘキ爲替手形ノ満期日ハ引受ノ日又ハ引受拒絶證書作成ノ日ヨリ之ヲ計算ス

第三百十二條

一慣習期ハ之ヲ三十日間トシ爲替手形ノ日附ノ翌日ヨリ之ヲ計算ス

第三百十三條

市場拂爲替手形ハ市場終了ノ前日ヲ以テ満期日トス、但市日カ單ニ一日ナルトキハ其ノ市日ヲ以テ満期日トス

第三百十四條 (千九百四年三月二十八日ノ法律)

爲替手形ノ満期日カ法定ノ祝祭日ニ當ルトキハ其ノ支拂ハ次ノ最初ノ營業日ニ於テ之ヲ爲スヘシ

約束手形竝ニ其ノ他ノ一切ノ商業證券ニ付キ又同シ

現行法ニ據ル祝祭日ハ左ノ如シ
日曜日、『クリスマス』基督昇天節、聖母昇天祭、萬聖節、一月一日、七月十四日、復活祭ノ月曜日、聖靈降臨節ノ月曜日、十一月十一日、

第三百十五條

恩惠上又ハ慣習上ノ猶豫期間ハ爲替手形ノ支拂ニ對シテハ之ヲ廢止ス

第六款 裏書

第三百三十六條

爲替手形ノ所有權ハ裏書ノ方法ニ依リテ之ヲ讓渡スルコトヲ得

第三百三十七條 (千九百二十二年二月八日ノ法律)

裏書ニハ方式トシテハ裏書人ノ署名ヲ以テ足ル其ノ裏書ハ之ノ裏書日ニ依リテ其ノ効力ヲ生スル

第三百三十八條 (千九百二十二年二月八日ノ法律)

裏書ハ讓渡ノ効力ヲ生ス、但當事者カ明ラカニ委任ノ意思ヲ表示シタルトキハ單ニ委任ノ効力ヲ生スル

ニ過キス爲替手形ハ由來ノ裏書人ノ署名ヲ以テ其ノ効力ヲ生ス

第三百三十九條

裏書ニハ前ノ日附ヲ爲スコトヲ得ス、之レニ反スル者ハ偽造罪ヲ以テ論スヘシ

第七款 連帶擔保

第四百十條

爲替手形ニ署名、引受又ハ裏書ヲ爲シタル者ハ所持人ニ對シ連帶シテ擔保ノ責ヲ負フヘシ

第八款 保

第九款 支拂

第四百一十一條

爲替手形ノ支拂ハ引受及ヒ裏書ノ有無ニ拘ラス保證ヲ以テ之ヲ擔保スルコトヲ得

第四百二十二條

保證ハ第三者カ爲替手形面又ハ別書ニ依リテ之ヲ爲スヘシ

保證人ハ振出人及ヒ裏書人ト連帶シテ且之レト同一ニ義務ヲ負フヘシ、但當事者間ニ特約アルトキハ此

ノ限リニ非ラス

第九款 支拂

第四百十三條

爲替手形ノ支拂ハ手形ニ記載シタル貨幣ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四百十四條

滿期日前ニ爲替手形ノ支拂ヲ爲シタル者ハ其ノ支拂ノ効力ニ付キ責ヲ負フヘシ

第四百十五條

故障ヲ受クルコトナクシテ滿期日ニ爲替手形ヲ支拂ヒタル者ハ其ノ債務ヲ免レタルモノト推定ス

第四百十六條

爲替手形ノ所持人ハ滿期日前ニ支拂ヲ受クルコトヲ要セス

第四百十七條

第二號手形、第三號手形、第四號手形等ニ對シテ支拂ヲ爲シタル場合ニ於テ他ノ複本カ其ノ支拂ニ因リテ效力ヲ失フヘキ旨ヲ其ノ第二號手形、第三號手形、第四號手形等ニ記載シタルトキハ其ノ支拂ハ爲替手形ノ支拂トシテ效力ヲ生ス

第四百十八條

引受アル複本ノ返還ヲ受ケスシテ第二號手形、第三號手形、第四號手形等ニ對シテ支拂ヲ爲シタル者ハ引受アル複本ノ所持人タル第三者ニ對シテ手形上ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第四百十九條

支拂ニ對スル異議ハ爲替手形ノ喪失又ハ所持人ノ破産ノ場合ニ限り之ヲ申立ツルコトヲ得

第四百十條

引受ナキ複本ヲ喪失シタル者ハ第二號手形、第三號手形、第四號手形等ヲ以テ其ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

第四百十一條

引受アル複本ヲ喪失シタル者ハ裁判所ノ命令ヲ得且保證ヲ立ツルニ非レハ第二號手形、第三號手形、第四號手形等ヲ以テ其ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス

第四百十二條

引受ノアリタルト否トヲ問ハス爲替手形ヲ喪失シタル者カ第二號手形、第三號手形、第四號手形等ヲ提出スルコト能ハサルトキハ其ノ帳簿ニ依リテ爲替手形ノ所有權ヲ證明シ且保證ヲ立テテ裁判所ノ命令ヲ受ケタル後ニ非レハ其ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス

第四百十三條

前二條ノ規定ニ依リテ爲シタル支拂ノ請求カ拒絕セラレタルトキハ喪失シタル爲替手形ノ所有者ハ拒絕證書ニ依リテ其ノ權利ヲ保全スルコトヲ要ス

前項ノ拒絕證書ハ喪失シタル爲替手形ノ満期日ノ翌日ニ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス

前項ノ拒絕證書ノ作成ハ引受又ハ支拂ノ拒絕證書作成ノ通知ニ關シテ定メタル方式並ニ期間ニ於テ振出人及ヒ裏書人ニ對シテ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第四百十四條

爲替手形ヲ喪失シタル者カ第二號手形ヲ得ント欲スルトキハ先ツ最後ノ裏書人ニ對シテ其ノ交付ヲ請求シ其ノ者ハ自己ノ直接ノ裏書人ニ對シ自己ノ名ヲ以テ同一ノ請求ヲ爲シ、順ヲ逐ヒテ終ニ振出人ニ對シテ同一ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス、其ノ費用ハ爲替手形ヲ喪失シタル者カ之ヲ負擔スヘシ

第四百十五條

第五百一十一條並ニ第五百十二條ニ掲ケタル保證ハ保證人カ三年間裁判外又ハ裁判上ノ請求ヲ受ケサリシトキハ其ノ效力ヲ失フ

第五百十六條

爲替手形ノ金額ノ一部ノ支拂アリタルトキハ振出人及ヒ裏書人ハ其ノ一部ニ付キ手形上ノ義務ヲ免ル所其人ハ其ノ殘額ニ付キ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

第五百十七條

裁判官ハ爲替手形ノ支拂ニ付キ期限ノ猶豫ヲ與フルコトヲ得ス

第十款 參加支拂

第五百十八條

支拂拒絶證書ノ作成アリタルトキハ第三者ハ振出人又ハ裏書人ノ爲メニ爲替手形ノ參加支拂ヲ爲スコトヲ得

參加支拂アリタルトキハ拒絶證書又ハ其ノ補箋ニ其ノ旨ヲ記載セシムルコトヲ要ス

第五百十九條

爲替手形ノ參加支拂ヲ爲シタル者ハ所持人ノ權利ニ代位シ且手形上ノ手續ノ履行ニ付キ所持人ト同一ノ義務ヲ負フヘシ

參加支拂カ振出人ノ爲メニ爲サレタルトキハ裏書人ハ皆手形上ノ義務ヲ免ル

參加支拂カ裏書人ノ一人ノ爲メニ爲サレタルトキハ其ノ裏書人ノ後者ハ皆手形上ノ義務ヲ免ル

參加支拂ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ最モ多數ノ者ヲシテ債務ヲ免レシムル效力ヲ有スル

支拂ヲ受クルコトヲ要ス

引受拒絶證書ノ作成アリタルトキト雖モ支拂人カ支拂ヲ爲サントスルトキハ所持人ハ他人ノ支拂ニ先チ

テ其ノ支拂ヲ受クヘシ

第十一款 所持人ノ權利義務

第六十條 (千八百六十二年五月三日ノ法律)

歐洲ノ大陸及ヒ島嶼又ハ『アルゼリア』ヨリ振出シ歐洲内ノ佛領又ハ『アルゼリア』ニ於テ一覽ノ日又

ハ一覽ノ日ヨリ一日若クハ數日、一月若クハ數月、一慣習期若クハ數慣習期ヲ經過シタル日ニ支拂フヘキ

爲替手形ノ所持人ハ其ノ日附ヨリ三月内ニ支拂又ハ引受ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス、若シ所持人カ此ノ請求

ヲ爲ササルトキハ裏書人及ヒ手形資金ヲ供シタル振出人ニ對スル遡及權ヲ失フ

地中海及ヒ黑海ノ沿岸國ヨリ歐洲内ノ佛領ニ宛テ振出シタル爲替手形並ニ歐洲ノ大陸及ヒ島嶼ヨリ地中

海及ヒ黑海ノ佛蘭西居留地ニ宛テ振出シタル爲替手形ニ付キテハ右ノ期間ヲ四月トス

喜望峰ヨリ近キ亞弗利加ノ諸國及ヒ『ホルン』岬ヨリ近キ亞米利加ノ諸國ヨリ歐洲内ノ佛領ニ宛テ振出

シタル爲替手形並ニ歐洲ノ大陸及ヒ島嶼ヨリ喜望峰ヨリ近キ亞弗利加ニ在ル佛蘭西ノ領地又ハ居留地及ヒ「ホルン」岬ヨリ近キ亞米利加ニ在ル佛蘭西ノ領地又ハ居留地ニ宛テ振出シタル爲替手形ニ付キテハ右ノ期間ヲ六月トス

前掲ノ地以外ノ地ヨリ歐洲内ノ佛領ニ宛テ振出シタル爲替手形並ニ歐洲ノ大陸及ヒ島嶼ヨリ前掲ノ地以外ノ地ニ在ル佛蘭西ノ領地又ハ居留地ニ宛テ振出シタル爲替手形ニ付キテハ右ノ期間ヲ一年トス

佛蘭西ノ本國、領地又ハ居留地ヨリ振出シ一覽ノ日又ハ一覽ノ日ヨリ一日若クハ數日、一月若クハ數月、一慣習期若クハ數慣習期ヲ經過シタル日ニ外國ニ於テ支拂フヘキ爲替手形ノ所持人カ各地ノ遠近ニ從ヒテ前ニ定メタル期間内ニ支拂又ハ引受ノ請求ヲ爲ササルトキハ本條第一項ノ場合ト同シク其ノ遡及權ヲ失フ、海戦ノ時ニハ右ノ時間ハ之ヲ二倍トス

爲替手形ノ受取人、振出人及ヒ裏書人間ノ特約ハ本條ノ規定ニ依リテ其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

爲替手形ノ所持人ハ滿期日ニ於テ支拂ヲ求ムルコトヲ要ス

爲替手形ノ支拂カ拒絶セラレタルトキハ支拂拒絶證書ト稱スル證書ヲ以テ之ヲ確カムルコトヲ要ス、右ノ拒絶證書ハ滿期日ノ翌日ニ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス、但所持人カ支拂ノ爲メ小切手ヲ受取リタル場合

ハ此ノ限リニ非ス

若シ滿期日ノ翌日カ法定ノ祝祭日ニ當ルトキハ拒絶證書ハ其ノ翌日ニ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス

所持人カ支拂ノ爲メ小切手ヲ受取ルコトヲ承諾シタルトキハ右ノ小切手ニハ支拂ハルヘキ證書ノ數並ニ滿期日ヲ記載スルコトヲ要ス

小切手ノ支拂ナキトキハ千八百六十五年六月十四日ノ法律第五條ニ定メタル期間内ニ爲替手形ノ支拂地ノ住所ニ小切手ノ支拂拒絶證書ノ作成ヲ通知スルコトヲ要ス

小切手ノ支拂拒絶證書ノ作成並ニ其ノ通知ハ同一ノ證書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

通知ヲ受ケタル支拂人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササルトキハ小切手ノ支拂拒絶證書ノ作成費用及ヒ通知ノ費用ト共ニ爲替手形ヲ立會ノ裁判所附屬吏ニ返還スルヲ要ス、右裁判所附屬吏ハ直チニ爲替手形ノ支拂拒絶證書ヲ作成スヘシ

支拂人カ爲替手形ヲ返還セサルトキハ直チニ拒絶證書ヲ作成スヘシ、右拒絶證書ニハ返還ナキコトヲ證明スルコトヲ要ス、右ノ場合ニ於テ第三者タル所持人ハ本法第百五十一條並ニ第百五十二條ノ規定ニ據ラサルコトヲ得ヘシ

第百六十三條

爲替手形ノ返還ナキトキハ刑法第四百八條ニ規定スル刑ヲ受クヘキ輕罪ヲ構成スヘシ

引受拒絶證書ヲ作ラシメタルトキ又ハ支拂人カ死亡若クハ破産シタルトキト雖モ所持人ハ支拂拒絶證書ノ作成ヲ省略スルコトヲ得ス満期日前ニ引受人カ破産シタルトキハ所持人ハ拒絶證書ヲ作ラシメタル上遡及權ヲ行使スルコトヲ得ヘシ

第三百六十四條

爲替手形ノ所持人カ支拂拒絶證書ヲ作ラシメタルトキハ振出人及ヒ裏書人ノ一人又ハ數人ニ對シテ償還ノ訴ヲ爲スコトヲ得

各裏書人ハ振出人竝ニ其ノ前者タル裏書人ニ對シテ償還ノ訴ヲ爲スコトヲ得

第三百六十五條

所持人カ其ノ前者ノ一人ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スニハ之レニ對シテ拒絶證書ノ作成ヲ通知スルコトヲ要ス、又償還ヲ受ケス且其ノ前者カ五『ミリアメートル』以内ノ地ニ居住スルトキハ拒絶證書ノ日附後十五日内ニ之ヲ裁判所ニ召喚セシムルコトヲ要ス其十四日ノ期日正當ニ定メテ其間内ニ各替手形ノ支拂前項ニ定メタル期間ハ所持人ノ前者カ爲替手形ノ支拂地ヨリ五『ミリアメートル』以外ノ地ニ居住スルトキハ二『ミリアメートル』半ヲ超過スル毎ニ一日ヲ加フ

第三百六十五條ハ民事訴訟法新千三十三條——千九百二十二年

三月十三日ノ法律——ニ依リテ修正セラレタリ

第三百六十六條 (千八百六十二年五月三日ノ法律)

佛蘭西ヨリ歐洲内ニシテ佛領ニアラサル地ニ宛テ振出シタル爲替手形ノ所持人カ支拂拒絶證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テ振出人及ヒ裏書人カ佛蘭西内ニ居住スルトキハ之レニ對スル訴ハ左記ノ期間内ニ之ヲ爲スヘシ

『コルシカ』島、『アルゼリア』、不列顛諸島、伊太利、和蘭及ヒ佛蘭西ニ接續セル諸國ニ於テ支拂フヘキ手形ニ付キテハ一箇月前掲ノ地以外ノ歐洲諸國又ハ地中海及ヒ黑海ノ沿岸諸國ニ於テ支拂フヘキ手形ニ付キテハ二月

歐洲外ニシテ『マラッカ』海峡、『ソンド』海峡及ヒ『ホルン』岬ヨリ近キ諸地ニ於テ支拂フヘキ手形ニ付キテハ五月

『コラッカ』海峡、『ソンド』海峡及ヒ『ホルン』岬ヨリ遠キ諸地ニ於テ支拂フヘキ手形ニ付キテハ八月、大陸佛蘭西以外ノ佛領ニ居住スル振出人及ヒ裏書人ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スヘキ期間ハ前掲ノ期間ノ割合ニ據ルヘシ

海戦ノ場合ニハ前掲ノ期間ハ海外ノ諸國ニ關シ之ヲ二倍トス

第三百六十七條

所持人カ振出人及ヒ裏書人ノ數人ニ對シテ、共同ニ償還ノ請求ヲ爲サントスルトキハ其ノ各人ニ對シ前

二條ニ定メタル期間ノ猶豫ヲ享クヘシ
各裏書人ハ其ノ前者タル裏書人及ヒ振出人ノ一人又ハ數人ニ對シテ前二條ニ定メタル期間内ニ償還ノ訴
ヲ爲スコトヲ得

前項ノ期間ハ裏書人カ召喚ヲ受ケタル翌日ヨリ之ヲ起算ス

第六十八條

一覽ノ日又ハ一覽ノ日ヨリ一日若クハ數日、一月若クハ數月、一慣習期若クハ數慣習期ヲ經過シタル日
ニ支拂フヘキ爲替手形ノ呈示期間、支拂拒絕證書ノ作成期間又ハ償還ノ訴ヲ爲スヘキ期間カ經過シタルト
キハ爲替手形ノ所持人ハ裏書人ニ對スル一切ノ權利ヲ失フ

第六十九條

各裏書人ハ其ノ償還ノ訴ニ付キ前ニ定メタル期間カ經過シタルトキハ其ノ裏書讓渡人ニ對スル償還請求
權ヲ失フ

第七十條

振出人カ爲替手形ノ満期日ニ於テ手形資金ノ存セシコトヲ證明スルトキハ所持人及ヒ裏書人ハ振出人自
身ニ對シテモ亦其ノ權利ヲ失フ
前項ノ場合ニ於テ所持人ハ支拂人ニ對シテノミ訴ヲ爲スコトヲ得

第七十一條

支拂拒絕證書作成ノ期間若クハ其ノ通知期間又ハ裁判所ニ召喚セシムヘキ期間カ經過シタル後振出人又
ハ裏書人カ勘定、相殺其ノ他ノ方法ニ依リテ爲替手形ノ支拂ニ充テタル手形資金ヲ取戻シタルトキハ所持
人ニ對シ前二條ニ定メタル免責ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス

七十二條

爲替手形ノ所持人カ支拂拒絕證書ヲ作ラシメタルトキハ償還ノ訴ヲ爲スニ必要ナル手續ヲ履ミタルト否
トヲ問ハス裁判所ノ許可ヲ得テ振出人、引受人及ヒ裏書人ノ動産ノ假差押ヲ爲スコトヲ得

第七十三條

引受又ハ支拂ノ拒絕證書ハ公證人二名、公證人一名及ヒ證人二名又ハ執達吏一名及ヒ證人二名ヲシテ之
ヲ作ラシムルコトヲ要ス

拒絕證書ハ左ノ場所ニ於テ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス

支拂人ノ住所、若シ其ノ住所カ知レサルトキハ最後ノ住所

猶豫備支拂人ノ住所

前參加引受人ノ住所

前項ノ場所ニ於テ作ラシムヘキ拒絶證書ハ一通ヲ以テ足ル

住所ノ記載カ誤マレルトキハ拒絶證書ニ搜索證書ヲ添付スルコトヲ要ス

第七十四條

拒絶證書ニハ左ノ事項ヲ存スルコトヲ要ス

一 爲替手形、引受、裏書及ヒ豫備支拂人記載ノ謄寫、

二 手形金額ノ支拂ノ請求

三 拒絶證書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

支拂人ノ在宅又ハ不在

支拂拒絶ノ理由竝ニ署名ノ不能又ハ拒絶

拒絶證書ハ爲替手形ノ所持人ニ於テ他ノ證書ヲ以テ之レニ代フルコトヲ得ス、但本法第五百二十二條以下

竝ニ第六十二條第七項ニ定メタル場合ハ此ノ限リニ非ス

第七十六條

公證人又ハ執達吏ハ拒絶證書ノ詳細ナル寫ヲ遺シ置キ且特別ノ帳簿ニ日々順ヲ追ヒテ之ヲ記入スルコト

ヲ要ス、但其ノ帳簿ニハ番號ヲ附シ花押ヲ爲シ其ノ他公證人ノ書類目錄ニ付キ定メタル方式ニ據リテ之ヲ

作ルコトヲ要ス、若シ公證人又ハ執達吏カ此ノ規定ニ反スルトキハ其ノ職ヲ免セラレ且當事者ニ對シテ費

用竝ニ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

(千九百六年十二月二十二日ノ法律)

尙ホ證書ニ爲替手形ノ振出人又ハ約束手形ノ最初ノ裏書人ノ住所ヲ記載シタルトキハ公證人又ハ執達吏

ハ登録後四十八時間以内ニ書留郵便ヲ以テ爲替手形ノ振出人又ハ約束手形ノ最初ノ裏書人ニ對シ支拂拒絶

ノ理由ヲ豫告スルコトヲ要ス、若シ公證人又ハ執達吏カ此ノ規定ニ反スルトキハ損害賠償ヲ爲スコトヲ要

ス、公證人又ハ執達吏ハ該書狀ニ對シ郵税及ヒ書留料以外ニ二十五仙ノ手数料ヲ受クヘシ

第七十七條

戻爲替料ノ償還ハ戻爲替手形ニ依リテ之ヲ爲スモノトス

第七十八條

戻爲替手形トハ新爲替手形ニシテ所持人カ之レニ依リテ本爲替手形ノ金額、費用及ヒ爲替料ノ償還ヲ得

ンカ爲メニ振出人又ハ裏書人ニ宛テテ振出スモノヲ謂フ

第七十九條

戻爲替料ハ振出人ニ對シテハ本爲替手形ノ支拂地ヨリ其ノ振出地ヘノ爲替相場ニ依リテ之ヲ定ム

二〇三

裏書人ニ對シテハ本爲替手形ノ讓渡地ヨリ償還ヲ爲スヘキ地ヘノ爲替相場ニ依リテ之ヲ定ム

第一百八十条

戻爲替手形ニハ償還計算書ヲ添付スルコトヲ要ス

第一百八十一条

償還計算書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 本爲替手形ノ金額

二 拒絶證書作成ノ費用其ノ他正當ノ費用例ヘハ銀行ノ手数料、仲買人ノ口錢、證券印紙代、郵便切手代

三 償還計算書ニハ戻爲替手形ノ支拂人ノ名及ヒ戻爲替手形ヲ讓渡シタル相場ヲ記載スルコトヲ要ス

四 償還計算書ハ手形仲買人ノ證明ヲ要ス

五 手形仲買人無キ地ニ於テハ商人二名ノ證明ヲ要ス

六 償還計算書ニハ本爲替手形及ヒ拒絶證書ノ原本又ハ謄本ヲ添付スルコトヲ要ス

七 尙ホ裏書人ニ宛テテ戻爲替手形ヲ振出ストキハ前ニ掲ケタル書類ノ外本爲替手形ノ支拂地ヨリ其ノ振出

地ヘノ爲替相場ヲ證明スヘキ書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第一百八十二条

一通ノ爲替手形ニ關シ數通ノ償還計算書ヲ作ルコトヲ得ス

償還計算書ノ金額ハ裏書人ノ一人ヨリ他ノ裏書人ニ之ヲ償還シ終ニ振出人ノ之ヲ償還スルモノトス

第一百八十三条

數個ノ爲替戻料ヲ合セ求ムルコトヲ得ス各裏書人及ヒ振出人ハ唯一ノ戻爲替料ヲ支拂フヲ以テ足ル

第一百八十四条

爲替手形ノ所持人カ支拂拒絶證書ヲ作ラシメタルトキハ手形金額ニハ拒絶證書作成ノ日ヨリ利息ヲ附ス

ヘシ

第一百八十五条

拒絶證書ノ作成並ニ房爲替ノ費用其ノ他正當ノ費用ニハ裁判上ノ請求ヲ爲シタル日ヨリ利息ヲ附スヘシ

第一百八十六条

第一百八十一条ノ規定ニ反シテ償還計算書ニ手形仲買人又ハ商人ノ證明書ヲ添付セサルトキハ戻爲替ノ費

用ハ之ヲ償還スルコトヲ要セス

第二章 商法第一卷第八編第三節 時効

第一百八十九条

商人又ハ銀行カ署名シ又ハ非商人カ商事ニ關シテ署名シタル爲替手形及ヒ約束手形ニ基ク訴權ハ裁判ノ
宣告無キトキ又ハ債務カ別書ヲ以テ承認セラレサルトキハ拒絶證書作成ノ日又ハ最後ニ裁判上ノ請求ヲ爲

シタル日ヨリ五年ノ時効ニ因リテ消滅スヘシ
若シ他人ヨリ債務者ナリト主張セラレタルトキハ相手方ノ請求ニ依リテ宣誓ノ上其ノ債務ヲ負ハサル旨
ヲ證明スルコトヲ要ス、又其ノ者ノ寡婦、相續人又ハ承繼人ハ宣誓ノ上其ノ者カ債務ヲ負ハサリシ旨ヲ證
明スルコトヲ要ス
第三章 破産
第一編 破産ノ宣告及ヒ其ノ效果
第四百四十四條
破産宣告ノ判決アリタルトキハ辨濟期ノ到來セサル債務ト雖モ破産者ニ對シ之ヲ請求スルコトヲ得
約束手形ノ署名者、爲替手形ノ振出人又ハ引受無キトキハ振出人ノ破産ノ場合ニハ其ノ他ノ債務者ハ即
時ノ支拂ヲ欲セサルトキハ滿期日ニ支拂フ爲メ保證ヲ立ツルコトヲ要ス
(四) 商法第三卷第一編第一章
第四百四十九條
爲替手形カ支拂停止ノ時期ト定メラレタル時以後破産宣告ノ判決前ニ於テ支拂ハレタル場合ニハ其ノ者
ノ爲メニ爲替手形カ提供セラレタル者ニ對シテノミ返還訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘシ

約束手形ナルトキハ最初ノ裏書人ニ對シテノミ訴ヲ起スコトヲ得ヘシ
執レノ場合ニ在リテモ返還ノ請求ヲ受ケタル者カ手形ノ振出ノ時ニ支拂停止ヲ知リタルコトヲ證明セサ
ルヘカラス
(五) 商法第四卷 商事裁判權
第二編 商事裁判所ノ權限
第六百三十二條
法律ハ左ニ掲ケタル行爲ヲ商行爲ト看做ス
商品ヲ現物ニテ又ハ之ヲ加工シ使用シタル後賣却シ又ハ單ニ其ノ使用ヲ貸貸スルコトヲ目的トスル商品
ノ購買
製造業、問屋業、陸上又ハ海上ノ運送業、供給業、代理業、事務所業、競賣所業、興行業
爲替、銀行、仲立ニ關スル取引
公ノ銀行ノ諸取引
商人ト銀行業者間ノ債務取引
(千八百九十四年六月七日ノ法律)

一切ノ者ノ間ノ爲替手形ニ關スル行爲

(六) 商法第四卷第二編 商事裁判所ノ權限

第六百三十六條

爲替手形カ第一百十二條ノ規定ニ據リテ單ニ通常ノ契約書ト看做サルル場合又ハ約束手形ニ非商人ノ署名ノミヲ記載シ商業、取引、爲替、銀行又ハ仲立ノ行爲ノ原因トナラサル場合ニハ商事裁判所ハ被告ノ請求ニ基キ民事裁判所ニ之ヲ移送スルコトヲ要ス

第六百三十七條

前條ニ掲ケタル爲替手形又ハ約束手形ニ商人ノ署名ト非商人ノ署名トヲ同時ニ記載シタル場合ニハ商事裁判所ハ之ヲ審理スヘシ、但非商人カ商業、取引、爲替、銀行又ハ仲立ノ行爲ニ關與スルニ非レハ非商人ニ對シテ民事拘束ヲ宣告スルコトヲ得ス

(民事、商事ニ關シ並ニ外國人ニ對スル民事拘束ハ千八百六十七年

七月二十二日ノ法律ヲ以テ廢止セラレタリ)

(七) 所持人カ滿期日後三日以内ニ出頭セサル約束手形其ノ他ノ流通證券ノ金額供託ニ關スル

革命曆三年十一月六日ノ布告

第一條

所持人カ滿期日後三日以内ニ出頭セサル約束手形、爲替手形、無記名手形又ハ其ノ他ノ流通證券ノ債務

者ハ手形金額ヲ支拂地タル郡ノ登記收入官吏ニ供託スルコトヲ得

第二條

共託證書ハ手形ノ日附、滿期日及ヒ手形カ元其ノ者ノ利益ノ爲メニ作成セラレタル者ノ名ヲ記載スヘシ

第三條

供託ヲ爲シタルトキハ債務者ハ手形ト引換ヘニ非レハ供託證書ヲ交付スルコトヲ要セス

第四條

供託シタル金額ハ供託證書ノ交付並ニ收入官吏ノ帳簿上へ所持人ノ署名以外ノ手續無クシテ供託證書ヲ提出スル者ニ之ヲ交付スヘシ

第五條

所持人カ署名スルコト能ハサルトキハ帳簿上ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第六條

供託ニ對シテ登記收入官吏ノ受クヘキ手数料ハ「パーセント」ト定ム、右ノ手数料ハ手形ノ所持人ニ依リテ之ヲ負擔スヘシ

(八) 千八百十六年四月二十八日ノ法律ニ依リテ設置セラレタル供託所ノ權限ニ關スル千八百

十六年七月三日ノ命令

債務者カ千七百九十五年七月二十三日（革命曆三年十一月六日）ノ法律ニ據リテ債務ヲ免レント欲ス
ルトキハ所持人カ滿期日ニ支拂ノ請求ヲ爲ササル商業證券ノ金額ヲ前條ニ記載スル供託ニ之ヲ供託スヘシ
（九） 千八百二十二年度ノ豫算ニ關スル千八百二十二年五月一日ノ法律
第二編 千八百二十二年度ニ於ケル歲入

第一節 諸手數料

第六條

第二號手形、第三號手形又ハ第四號手形ヲ以テ振出シタル爲替手形ハ印紙ヲ貼用セサル用紙ヲ使用シタル場合ト雖モ拒絕證書作成ノ場合ニ於テハ印紙稅竝ニ罰金ヲ課スルコト無クシテ之ヲ登錄スルコトヲ得ヘシ、但相當ノ印紙ヲ貼用シタル用紙ヲ使用シタル第一號手形カ相共ニ登記收入官吏ニ提出セラルルコトヲ要ス

（十） 商法第七十八條及ヒ第七十九條ヲ假ニ修正シタル千八百四十八年三月二十四日ノ布

假政府ハ商業界ノ苦痛ニシテ特ニ現狀ニ於テハ負擔ヲ重カラシムル償還計算書ノ濫用ヲ考慮シ左ノ如ク定ム

商法第七十八條及ヒ第七十九條ハ假ニ左ノ如ク之ヲ修正ス

第七十八條

戻爲替手形ハ振出人ノミカ記入並ニ署名シ證券ノ裏面ニ記載シタル明細書ヲ以テ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- （一） 本手形ノ金額
- （二） 拒絕證書作成費用並ニ必要アルトキハ解約通知ノ費用
- （三） 遲延利息
- （四） 爲替ノ損失
- （五） 戻爲替手形ノ印紙、三十五仙ト定ム

第七十九條

戻爲替料ハ佛蘭西本土ニ於テハ左ノ如ク一律ニ之ヲ定ム

縣廳所在地ハ四分ノ一『パーセント』、郡役所所在地ハ二分ノ一『パーセント』、其ノ他ノ場所ハ四分ノ三『パーセント』

如何ナル場合ニ於テモ同一縣内ニ於テハ戻爲替料ヲ徵收セス、外國爲替並ニ本土以外ノ佛蘭西領土ニ關スル爲替ハ商慣習ニ依リテ之ヲ定ム、商法第八十條、第八十一條、第八十六條並ニ其ノ他ノ法律規定ノ施行ハ之ヲ停止ス

(學說ニ據レバ千八百四十八年三月二十四日ノ布告ハ假政府カ有シタル特別權限ノ實施期間ノミ施行セラレタルモノニシテ前記ノ商法條文ハ國民議會ノ召集ノ日タル千八百四十八年五月四日ニ復活シタルモノナリト謂フ、之レニ反シテ他ノ學說ニ據レハ千八百四十八年ノ布告ハ『ドマンジャ』ノ意見ノ如ク償還計算書ノ誇張ヨリ生スル眞ノ濫用ヲ除去シタルモノナルカ故ニ經過的ノ性質ヲ有セサルモノト主張ス、而シテ後者ノ學說ニ從ヘハ右ノ布告ハ今日ニ至ルマテ廢止セラレタルコトナキヲ以テ法律タル效力ヲ有スル其ノ規定ハ假令假ニ發布セラレタルモノナリト雖モ確定シタルモノナリトス、實際ニハ該規定ハ常ニ適用セラレ居レリ)

(十一) 法定ノ祭日カ日曜日ニ該當スル場合ニハ該祭日ノ翌日ニ支拂ヲ請求シ又ハ拒絕證書ヲ作成スル能ハサル旨ヲ定ムル千九百四年十二月二十三日ノ法律

第一條

一月二日、七月十五日、八月十六日、十一月二日、十二月二十六日カ月曜日ニ該當スルトキハ手形、支拂命令書、小切手、交互計算、現金又ハ證券寄託又ハ其ノ他ノモノニ對シテ何等ノ支拂ヲ請求シ又ハ拒絕證書ヲ作成スルコトヲ得ス

但シ前項ノ場合ニ於テ前ノ土曜日ニ支拂ヲ爲ササリシ手形ノ拒絕證書ハ次ノ火曜日ニ非レハ之ヲ作成スルコトヲ得サルモノナレトモ反對規定ノ如何ニ拘ラス支拂人並ニ第三者ニ對シテ其ノ效力ヲ失フコトナシ

第二條

本法ハ『アルゼリア』並ニ植民地ニ之ヲ適用スヘシ

(十二) 法定ノ祭日カ金曜日ニ該當スル場合ニハ該祭日ノ翌日ニ支拂ヲ請求シ又ハ拒絕證書ヲ作成スルコトヲ得ス、法定ノ祭日カ火曜日ニ該當スル場合ニハ該祭日ノ前日ニ支拂ヲ請求シ又ハ拒絕證書ヲ作成スル能ハサル旨ヲ定ムル千九百五年七月十三日ノ法律

第一條 (千九百六年十二月二十日ノ法律)

法定ノ祭日カ金曜日又ハ火曜日ニ該當スル場合ニハ金曜日ニ該當スル祭日ノ翌日又ハ火曜日ニ該當スル祭日ノ前日ニ手形、支拂命令書、小切手、交互計算、現金又ハ證券ノ寄託又ハ其ノ他ノモノニ對シテ何等ノ支拂ヲ請求シ又ハ拒絕證書ヲ作成スルコトヲ得ス

但前項ノ場合ニ於テ前ノ土曜日又ハ月曜日ニ支拂ヲ爲ササリシ手形ノ拒絕證書ハ次ノ月曜日又ハ水曜日ニ非レハ之ヲ作成スルコトヲ得サルモノナレトモ反對規定ノ如何ニ拘ラス支拂人並ニ第三者ニ對シテ其ノ效力ヲ失フコトナシ

第二條

本法ハ『アルゼリア』並ニ植民地ニ之ヲ適用スヘシ

(千九百二十二年十月二十四日ノ法律第三條ノ規定ニ據レハ『法定ノ祭日』ニ關スル千九百五年七月十三

日ノ法律ハ十一月十一日ノ祭日ニ之ヲ適用セサルモノトス

(十三) 十一月一日カ月曜日ナル場合ニハ満期日ヲ延期スル千九百九年十月二十九日ノ法律

十一月一日ノ法定祭日カ月曜日ニ該當スル場合ニハ其ノ翌日タル十一月二日ニハ手形、支拂命令書、小切手、交互計算、現金又ハ證券ノ寄託又ハ其ノ他ノモノニ對シ何等ノ支拂ヲ爲シ又ハ拒絶證書ヲ作成スルコトヲ得ス

但支拂ヲ爲ササル手形ノ拒絶證書ハ次ノ水曜日ニ非レハ之ヲ作成スルコトヲ得サルモノナレトモ反對規定ノ如何ニ拘ラス支拂人並ニ第三者ニ對シ其ノ效力ヲ失フコトナシ

祭日ノ満日(十四) 拒絶證書ノ作成並ニ流通證券ニ關スル請求ヲ保全スルヲ目的トスル行爲ノ期間延長ニ

關スル千九百十年一月二十七日ノ法律

第一條

軍隊動員、天災又ハ公ノ災厄、國家、縣又ハ市町村カ管理シ又ハ其ノ監督ノ下ニ在ル公共役務ノ中止ノ場合ニハ閣令ヲ以テ全領土又ハ其ノ一部分ニ對シテ拒絶證書並ニ一切ノ流通證券ニ對シテ遡及權ノ保全ヲ目的トスル其ノ他ノ證書ヲ作成スヘキ期間ヲ延長スルコトヲ得

議會開會中ナルトキハ本條ニ規定スル期間ノ延長ハ全三十日ヲ超ユルコトヲ得ス、議會閉會中ナルトキハ期間ノ延長ハ一回又ハ數回之ヲ更新スルコトヲ得ヘシ

(千九百十年十二月二十四日ノ法律)

同一ノ状態並ニ同一ノ條件ニ於テハ流通證券ノ満期日ハ之ヲ延長スルコトヲ得ヘシ

第二條

本法ハ「アルゼリア」ニ之ヲ適用スヘシ

(十五) 千九百四年十二月二十三日ノ法律第一條千九百五年七月十三日ノ法律第一條千九百九

年十月二十九日ノ法律ヲ補完シ且支拂ヲ請求シ又ハ拒絶證書ヲ作成スル能ハサル日ニ該當

スル商業證券ノ満期日ヲ最初ノ營業日ニ繰越ス千九百二十五年七月七日ノ法律

商業證券カ千九百四年十二月二十三日ノ法律第一條又ハ千九百六年十二月二十日ノ法律ヲ以テ修正セラ

レタル千九百五年七月十三日ノ法律第一條又ハ千九百九年十月二十九日ノ法律ニ據リテ支拂ノ請求ヲ爲ス

コトヲ得サル日ニ満期日トナルトキハ右ノ満期日ハ次ノ最初ノ營業日ニ之ヲ繰越スヘシ

第二、約束手形

二一六

(一) 商法第一卷第八編第二節 約束手形 第百八十七條

満期日、裏書、連帯、手形保證、支拂、參加支拂、拒絶證書、所持人ノ權利義務、戻爲替又ハ利息ニ關スル爲替手形ノ規定ハ之ヲ約束手形ニ準用ス、但第六百三十六條、第六百三十七條及ヒ第六百三十八條ニ定メタル場合ニ關スル規定ノ適用ヲ妨クルコトナシ

第百八十八條

約束手形ニハ其ノ日附ヲ記載スルコトヲ要ス

約束手形ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

支拂フヘキ金額

指圖ヲ爲スヘキ者ノ名

支拂ヲ爲スヘキ時期

(二) 商法第一卷第八編第三節 時効 第百八十九條

商人又ハ銀行カ署名シ又ハ非商人カ商事ニ關シテ署名シタル爲替手形及ヒ約束手形ニ基テ訴權ハ裁判ノ宣告ナキトキ又ハ債務カ別書ヲ以テ承認セラレサルトキハ拒絶證書作成ノ日又ハ最後ノ裁判上ノ請求ヲ爲シタル日ヨリ五年ノ時効ニ因リテ消滅スヘシ

若シ他人ヨリ債務者ナリト主張セラレタルトキハ相手方ノ請求ニ依リテ宣誓ノ上其ノ債務ヲ負ハサル旨ヲ證書スルコトヲ要ス、又其ノ者ノ寡婦、相續人又ハ承繼人ハ宣誓ノ上其ノ者カ債務ヲ負ハサリシ旨ヲ證明スルコトヲ要ス

(三) 商法第三卷第一編第一章 破産ノ宣告及ヒ其ノ效果

第四百四十四條

破産宣告ノ判決アリタルトキハ辨濟期ノ到來セサル債務ト雖モ破産者ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ得

約束手形ノ署名者、爲替手形ノ振出人又ハ引受ナキトキハ振出人ノ破産ノ場合ニハ其ノ他ノ債務者ハ即時ノ支拂ヲ欲セサルトキハ満期日ニ支拂ヲ爲メ保證ヲ立ツルコトヲ要ス

(四) 商法第三卷第一編第一章 第四百四十九條

爲替手形カ支拂停止ノ時期ト定メラレタル時以後破産宣告ノ判決前ニ於テ支拂ハレタル場合ニハ其ノ者ノ爲メニ爲替手形カ提供セラレタル者ニ對シテノミ返還訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘシ

二一七

約束手形ナルトキハ最初ノ裏書人ニ對シテノミ訴ヲ起スコトヲ得ヘシ
孰レノ場合ニ在リテモ返還ノ請求ヲ受ケタル者カ手形ノ振出ノ時ニ支拂停止ヲ知リタルコトヲ證明セサ
ルヘカラス

(五) 所持人カ満期日後三日以内ニ出頭セサル約束手形其ノ他ノ流通證券ノ金額供託ニ關スル
革命曆三年十一月六日ノ布告

第一條

所持人カ満期日後三日以内ニ出頭セサル約束手形、爲替手形、無記名手形又ハ其ノ他ノ流通證券ノ債務
者ハ手形金額ヲ支拂地タル郡ノ登記收入官吏ニ供託スルコトヲ得

第二條

供託證書ニハ手形ノ日附、満期日及ヒ手形カ元其ノ者ノ利益ノ爲メニ作成セラレタル者ノ名ヲ記載スヘ
シ

第三條

供託ヲ爲シタルトキハ債務者ハ手形ト引換ヘニ非レハ供託證書ヲ交付スルコトヲ要セス

第四條

供託シタル金額ハ供託證書ノ交付並ニ收入官吏ノ帳簿上ヘ所持人ノ署名以外ノ手續無クシテ供託證書ヲ

提出スル者ニ之ヲ交付スヘシ

第五條

所持人カ署名スルコト能ハサルトキハ帳簿上ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第六條

供託ニ對シテ登記收入官吏ノ受クヘキ手数料ハ「パーセント」ト定ム。右ノ手数料ハ手形ノ所持人ニ
依リテ之ヲ負擔スヘシ

第三、小切手

(一) 千八百六十五年六月十四日ノ小切手法

第一條

小切手ハ支拂ノ委託ノ形式ヲ以テ作りタル證書ニシテ振出人カ支拂人ノ許ニ存シ且處分シ得ヘキ資金ノ全部又ハ一部ヲ自己又ハ第三者ノ爲メニ引出スカ爲メニ用フルモノトス

小切手ニハ振出ノ日附ヲ記載シ振出人之レニ署名スルコトヲ要ス

小切手ハ一覽拂タルコトヲ要ス

小切手ハ所持人又ハ名指人拂タルコトヲ得ヘシ

小切手ハ指圖人拂トシ且白地裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スルコトヲ得ヘシ

小切手ニハ振出地ヲ記載スルコトヲ要ス、振出ノ日附ハ小切手ヲ作りタル者自筆ニテ文字ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ要ス

小切手ノ支拂ヲ受ケタル者ハ所持人ト雖モ其ノ小切手ニ受領ノ旨並ニ其ノ日附ヲ記載スルコトヲ要ス

(千九百十一年十二月三十日ノ法律)但銀行カ手形交換所ニ交付シタル小切手ニ關シテハ小切手上ニ「手形

交換」ト記載シテ單ニ日附印ヲ押捺スルヲ以テ足ル

振出人、受取人並ニ支拂人間ニ一覽ノ日以外ノ日ヲ以テ滿期日トスル特約アルトキト雖モ其ノ特約ハ效

力ヲ生セス

第二條

小切手ハ前以テ支拂人ニ資金ヲ供シタルニ非レハ之ヲ振出スコトヲ得ス、小切手ハ呈示ノトキ之ヲ支拂フヘキモノトス

(千九百二十六年八月十二日ノ法律)

資金カ小切手ノ金額ヨリ少キトキハ所持人ハ資金ノ金額ニテ支拂ヲ受クルカ又ハ全部ノ支拂ヲ拒絶スルノ權利ヲ有ス

所持人カ一部分ノ支拂ヲ受クルトキハ之ヲ小切手面ニ記載シ且支拂人ニ對シ支拂金額ノ受取證ヲ與フルコトヲ要ス、右ノ受取證ハ別書ヲ以テ交付シタルトキト雖モ印紙稅ニ關シテハ小切手面ニ爲シタル受取證ト同一ノ免除ヲ享クヘシ

所持人カ全部ノ支拂ヲ拒絶スルトキハ支拂人ハ小切手面ニ不足資金ノ金額ヲ記載スルコトヲ要ス、右資金ハ專ラ所持人ノ利益ノ爲メニ之ヲ保存スヘシ

支拂人カ故意ニ現存資金ヨリ少キ資金ヲ記載シ又ハ小切手面ニ資金ノ金額ヲ記載スルコトヲ拒ムトキハ

五百法以上一萬法以下ノ罰金ニ處セラルヘシ
金ハ申シテ振出人ノ第 三 條

小切手ハ一ノ地ヨリ他ノ地ニ又ハ一ノ地ヨリ其ノ地ニ宛テ振出スコトヲ得
第 四 條

一ノ地ヨリ他ノ地ニ宛テ小切手ヲ振出シタルトキト雖モ其ノ振出ハ必スシモ商行為ニ非ス
但爲替手形ノ振出人及ヒ裏書人ノ連帶償還義務、拒絶證書並ニ償還請求ノ訴ニ關スル商法ノ規定ハ小切
手ニ之ヲ準用スヘシ

(千九百一十六年八月十二日ノ法律)

拒絶證書作成ノ場合ニハ印紙並ニ登録ニ關スル手續ハ條件成就ニ至ル迄之ヲ履行スルコトヲ要セス、手
數料ノ徴收ハ國庫ニ依リテ振出人ニ對シ之ヲ爲スヘシ

第 五 條

小切手ノ所持人ハ其ノ支拂地カ振出地ト同一ナルトキハ振出ノ日ヲ算入シテ五日間又其ノ支拂地カ振出
地ト異ルトキハ振出ノ日ヲ算入シテ八日間ニ支拂ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

小切手ノ所持人カ前項ニ定メタル期間内ニ支拂ノ請求ヲ爲ササルトキハ裏書人ニ對スル償還ノ請求權ヲ
失フ、若シ其ノ期間經過後ニ支拂人カ資金ヲ失ヒタルトキハ所持人ハ振出人ニ對シテモ亦償還ノ請求權ヲ

失フ

第 六 條 (千八百七十四年二月十九日ノ法律第六條)

振出人カ他處拂小切手ナル場合ニ日附ヲ記載セサル小切手又ハ文字ヲ以テ日附ヲ記載セサル小切手ヲ振
出シ、又ハ虚偽ノ日附ヲ記載シ又ハ振出地ノ虚偽記載ヲ爲シタルトキハ小切手ノ金額ノ百分ノ六ノ罰金ニ
處セラルヘシ、但右ノ罰金ハ百法ヲ下ルコトヲ得ス

他處拂小切手ナル場合ニ日附ヲ記載セサル小切手又ハ文字ヲ以テ日附ヲ記載セサル小切手又ハ裏書又ハ
呈示アリタル時以後ノ日附ヲ有スル小切手ノ最初ノ裏書人又ハ所持人モ亦自ラ且上訴ノ權利無クシテ前項
ノ罰金ニ處セラルヘシ、尙ホ日附ヲ記載セサル小切手又ハ不正ノ日附ヲ記載シタル小切手又ハ振出ノ日附
以前ニ支拂ノ爲メ呈示セラレタル小切手ヲ手形交換トシテ支拂ヒ又ハ受取ル者モ亦前項ノ罰金ニ處セラル
ヘシ

(千九百十七年八月二日ノ法律)

豫メ且處分シ得ヘキ資金無クシテ小切手ヲ振出シタル者ハ第一項記載ノ罰金ニ處セラルヘシ
資金カ小切手ノ金額ヨリ少キトキハ罰金ハ資金ノ金額ト小切手ノ金額トノ差額ニ對シテノミ之ヲ科スヘ
シ

(千九百二十六年八月十二日ノ法律)

悪意ヲ以テ豫メ且處分シ得ヘキ資金無ク又ハ小切手ノ金額ヨリ少キ資金ヲ以テ小切手ヲ振出し又ハ振出後資金ノ全部又ハ一部分ヲ撤回シ又ハ支拂人ニ對シテ支拂ノ禁止ヲ爲シタル者ハ刑法第四百五條ニ定ムル詐欺罪ノ刑ニ處セラルヘシ、右ノ場合ニ於テ罰金ハ小切手ノ金額ノ二倍ヲ超エ又ハ小切手ノ金額ノ二分ノ一ヲ下ルコトヲ得サルモノトス

刑法第四百六十三條ハ前記ノ犯罪ニ之ヲ適用スヘシ

第七條

小切手ハ本法ノ發布ノ日ヨリ十年間印紙稅ヲ免除ス

第八條 (千九百十一年十二月三十日ノ法律)

平行ノ二線ヲ引キタル小切手ハ銀行ニ非レハ支拂ノ爲メ之ヲ呈示スルコトヲ得ス、右ノ小切手ハ銀行宛ニ非レハ之ヲ振出スコトヲ得ス

線引ハ振出人又ハ所持人ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ

(千九百十七年一月二十六日ノ法律)

本法ノ規定ニ關シテハ仲買人ハ銀行ト看做スヘシ

第九條 (千九百十一年十二月三十日ノ法律)

線引ハ通常又ハ特別タルコトヲ得ヘシ

二線間ニ何等ノ記載ナキトキ又ハ單ニ『會社』ナル記載アルトキハ通常線引トス、銀行名カ二線間ニ記入セラルトキハ特別線引トス

通常線引ハ之ヲ特別線引ニ變更スルコトヲ得ヘシ

特別線引小切手ハ指定シタル銀行ニ非レハ支拂ノ爲メ之ヲ呈示スルコトヲ得ス、但指定銀行カ自ラ領收ヲ爲ササルトキハ他ノ銀行ヲシテ之レニ代ラシムルコトヲ得

所持人ハ線引並ニ指定銀行名ヲ抹消スルコトヲ得ス

第十條 (千九百十一年十二月三十日ノ法律)

通常線引ナル場合ニ銀行以外ノ者ニ對シ又特別線引ナル場合ニ指定銀行以外ノ者ニ對シ支拂人カ線引小切手ヲ支拂ヒタルトキハ債務ヲ免除セラルルコトナシ

第十一條 (千九百十七年一月二十六日ノ法律)

領收ノ爲メ小切手ヲ呈示シタルトキ佛蘭西銀行又ハ佛蘭西銀行ニ勘定ヲ有スル銀行ニ於テ支拂地タル住所ノ選定ヲ小切手面ニ附記スルコトハ印紙稅ヲ要セス

尙ホ前項ノ支拂地タル住所ノ選定ハ所持人ノ意思ニ反シテ之ヲ行フコトヲ得ス、但小切手カ線引ニシテ住所ノ選定カ同一場所ニ於テ佛蘭西銀行ニテ爲サルトキハ此ノ限リニ非ス

第十二條 (千九百二十六年八月十二日ノ法律)

小切手ノ振出人ハ小切手ノ滅失又ハ所持人ノ破産ノ場合ニ非レハ小切手ノ支拂ニ故障ヲ申立ツルコトヲ得ス

前項ノ禁止アルニモ拘ラス振出人カ他ノ原因ノ爲メ故障ヲ申立テタルトキハ急速審理事件ノ裁判官ハ主タル訴訟カ繫屬中ノ場合ニ在リテモ所持人ノ請求ニ基キ右ノ故障ノ取下ヲ命スルコトヲ要ス

第十三條 (千九百二十六年八月十二日ノ法律)

債權者カ承諾シタル小切手ノ支拂免除ハ更改ヲ生セス、從テ右ノ小切手カ支拂ハルルマテ原債權ハ之レニ附着スル一切ノ擔保ト共ニ殘存スヘシ

第十四條 (千九百二十六年八月十二日ノ法律)

資金ヲ有シテ其ノ金庫ニ於テ支拂ハルヘキ白紙小切手用紙ノ債權者ニ交付シタル千九百二十四年十二月三十一日ノ法律第八條ニ規定スル者又ハ施設ハ各用紙毎ニ交付ヲ受ケタル者ノ名ヲ記載スルコトヲ要ス、之レニ違反スルトキハ二十法ノ罰金ニ處セラルヘシ

第十五條 (千九百二十六年八月十二日ノ法律)

千九百二十二年二月八日ノ法律ヲ修正シタル商法第百十六條第二項ノ規定ハ小切手ニ之ヲ準用スヘシ

(二) 登録税並ニ印紙税(小切手)ノ増額ニ關スル千八百七十四年二月十九日ノ法律)

第五條

左ノ規定ハ千八百六十五年六月十四日ノ法律第一條ニ之ヲ附加ス

『小切手ニハ振出地ヲ記載スルコトヲ要ス振出ノ日附ハ小切手ヲ作リタル者自筆ニテ文字ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ要ス

小切手ノ支拂ヲ受ケタル者ハ所持人ト雖モ其ノ小切手ニ受領ノ旨並ニ其ノ日附ヲ記載スルコトヲ要ス

振出人、受取人並ニ支拂人間ニ一覽ノ日以外ノ日ヲ以テ滿期日トスル特約アルトキト雖モ其ノ特約ハ效カラ生セス

第六條

千八百六十五年六月十四日ノ法律第六條ハ之ヲ廢止シ左ノ規定ヲ以テ之レニ代フ

『振出人カ他處拂小切手ナル場合ニ日附ヲ記載セサル小切手又ハ文字ヲ以テ日附ヲ記載セサル小切手ヲ振出シ、又ハ虛偽ノ日附ヲ記載シ又ハ振出地ノ虛偽記載ヲ爲シタルトキハ小切手ノ金額ノ百分ノ六ノ罰金ニ處セラルヘシ、但右ノ罰金ハ百法ヲ下ルコトヲ得ス

他所拂小切手ナル場合ニ日附ヲ記載セサル小切手又ハ文字ヲ以テ日附ヲ記載セサル小切手又ハ裏書又ハ呈示アリタル時以後ノ日附ヲ有スル小切手ノ最初ノ裏書人又ハ所持人モ亦自ラ且上訴ノ權利無クシテ前項ノ罰金ニ處セラルヘシ、尙ホ日附ヲ記載セサル小切手又ハ不正ノ日附ヲ記載シタル小切手又ハ振出ノ日附以前ニ支拂ノ爲メ呈示セラレタル小切手ヲ手形交換トシテ支拂ヒ又ハ受取ル者モ亦前項ノ罰金ニ處セラル

(前掲千八百六十五年六月十四日ノ法律第六條ヲ参照スヘシ)

(六) 新財源ノ設定ヲ目的トスル千九百二十四年三月二十二日ノ法律第八條
小切手並銀行ノ振替命令ニ屬スル稅率ハ附加稅ヲ課スルコト無ク一律ニ之ヲ二十五仙ト定ム

但銀行、仲買人、公金庫中央出納官、縣金庫出納官又ハ國庫收入官吏以外ノ者ニ宛テ振出シタル小切手
ニハ右ノ外收入印紙稅ヲ課スヘシ

(七) 千九百二十五年度二千九百二十五年一月及ヒ二月ニ適用スヘキ假貸付ヲ設クル千九百二

十四年十二月三十一日ノ法律
銀行、仲買人、公金庫中央出納官、縣金庫出納官、國庫收入官吏又ハ收稅官吏ニ宛テ振出シタル小切手、

又ハ郵便小切手、又ハ銀行振替、又ハ郵便振替ニ依リテ支拂ハレタル金額ノ受領證ハ左ノ事項ヲ記載スル
コトヲ條件トシテ收入印紙稅ヲ免除セラルヘシ

小切手ニ依リテ支拂ヲ爲シタルトキハ小切手ノ日附並ニ番號並ニ支拂人ノ名又ハ郵便貯金番號及ヒ右ノ
貯金ヲ保管スル郵便小切手局ノ表示

銀行振替ニ依リテ支拂ヲ爲シタルトキハ振替命令ノ日附、其ノ振替ノ日附及ヒ取引ニ參加シタル銀行名、

郵便振替ニ依リテ支拂ヲ爲シタルトキハ振替小切手ノ日附及ヒ番號、充當セラレタル郵便貯金ノ番號及
ヒ充當ノ日附並ニ右ノ貯金ヲ保管スル郵便小切手局ノ表示

右ノ諸規定ニ違反スルトキハ千八百七十一年八月二十三日ノ法律第二十三條ニ規定スル罰金ノ二倍ノ刑
ニ處セラルヘシ、但シ必要アルトキハ千九百二十年六月二十五日ノ法律第百十二條ニ規定スル刑罰ヲ科ス
ルコトヲ妨ケス

(八) 小切手法ヲ修正補完シタル千九百二十六年八月十二日ノ法律

(前掲千八百六十五年六月十四日ノ法律第二條、第四條、第六條、第十二條、第十三條、第十四條、第十
五條ヲ参照スヘシ)

尙ホ右ノ外線引小切手ニ關スル千九百十一年十二月三十日ノ法律ヲ植民地ニ適用スル千九百十六年一月
十五日ノ布告、千九百十一年十二月三十日ノ小切手法及ヒ千九百十七年八月二日ノ小切手法ヲ『アルゼリ
ア』ニ適用スル千九百十八年四月五日ノ布告、小切手ニ關スル法制ヲ修正補完シタル千九百二十六年八月
十二日ノ法律ヲ植民省所屬ノ植民地、保護國及ヒ委任統治地ニ適用スル千九百二十六年十月十五日ノ布告
アリ

英米獨佛ノ手形法及小切手法

號數	年	月	司 法 資 料 表 題
第一號	大正一〇	一一	定型アル犯罪ノ調査(賭博編)
第二號	一〇	一二	第二回國際少年保護會議議事錄
第三號	一一	一	國際刑事協會獨逸支部ニ於ケル保護視察制度創設ニ關スル會議議事錄
第四號	一一	二	米國ノ家庭裁判所
第五號	一一	三	獨逸ニ於ケル檢事局及司法警察
第六號	一一	四	米國ニ於ケル少年裁判所ト社會
第七號	一一	五	第二回國際少年保護會議提出報告書第一集
第八號	一一	六	英蘭及うえーるすノ警察
第九號	一一	七	復權ニ關スル佛國法令
第一〇號	一一	八	獨逸ニ於ケル調停手續ニ關スル規定佛國戰時家賃法伊國小作
第一一號	一一	九	契約法 英國ノ判事及ますたー論

第一二號	大正一一、一〇	英佛ノ辯護士法制
第一三號	〃 一一、一一	獨逸ノ辯護士法制
第一四號	〃 一一、一二	獨逸ニ於ケル監獄作業ノ經營竝ニ管理ニ關スル調査報告
第一五號	〃 一二、一	辯護士倫理
第一六號	〃 一二、二	獨逸國調停法案及同理由書
第一七號	〃 一二、三	英國監獄制度
第一八號	〃 一二、四	獨逸國少年福利法案同理由書及確定法文
第一九號	〃 一二、四	獨逸國少年裁判所法案及同理由書
第二〇號	〃 一二、五	市加古少年裁判所ノ研究
第二一號	〃 一二、五	勞働裁判法ニ關スル獨逸國裁判官會議議事錄及評論
第二二號	〃 一二、六	(附) 統一的勞働法編纂委員會起草勞働裁判法私案
第二三號	〃 一二、六	獨逸國ニ於ケル暴利取締法及活動ノ實況

戰前ニ於ケル獨逸國ノ社會的立法(附)丁抹ノ社會政策的立法概観

第二四號	大正一二、七	獨逸國經營協議會法及關係法令集
第二五號	〃 一二、七	獨逸國ニ於ケル賃率契約、勞働者及使用人委員會竝ニ勞働爭議ノ調停ニ關スル法制(附)調停制度概観
第二六號	〃 一二、八	獨逸國ニ於ケル住宅及移住制度(附)英國ニ於ケル農業小作紛議仲裁ノ實況
第二七號	〃 一二、八	短期自由刑論
第二八號	〃 一二、九	西班牙國假釋放ニ關スル法令集
第二九號	〃 一二、九	獨佛英ニ於ケル商工業者ニ關スル特別裁判法制
第三〇號	〃 一二、一〇	獨逸國勞働裁判所法案及理由書
第三一號	〃 一二、一〇	獨逸國少年裁判所法
第三二號	〃 一二、一一	司法制度改良論
第三三號	〃 一二、一一	獨逸新經濟法
第三四號	〃 一二、一二	職業組合、仲裁及仲裁裁判竝ニ賃率契約ニ關スル立法例
第三五號	〃 一二、一二	職業組合、仲裁及仲裁裁判竝ニ賃率契約ニ關スル立法例

(佛、伊、葡國之部)
(奧國及瑞西之部)

第三六號	大正一三、一	職業組合、仲裁及仲裁裁判並ニ賃率契約ニ關スル立法例 <small>(丁抹、瑞典、諾威之部)</small>
第三七號	〃 一三、一	英國ニ於ケル略式刑事手續及すこつとらんどニ於ケル刑事手續
第三八號	〃 一三、二	佛國借家借地法
第三九號	〃 一三、二	職業組合、仲裁及仲裁裁判並ニ賃率契約ニ關スル立法例 <small>(英國、加奈陀之部)</small>
第四〇號	〃 一三、三	佛國監獄制度及同職員令
第四一號	〃 一三、三	職業組合、仲裁及仲裁裁判並ニ賃率契約ニ關スル立法例 <small>(南亞之部)</small>
第四二號	〃 一三、四	職業組合、仲裁及仲裁裁判並ニ賃率契約ニ關スル立法例 <small>(澳洲之部)</small>
第四三號	〃 一三、四	職業組合、仲裁及仲裁裁判並ニ賃率契約ニ關スル立法例 <small>(米國之部)</small>
第四四號	〃 一三、五	英國法律生活概要及同國ノ刑事控訴制度
第四五號	〃 一三、五	英國裁判所構成論(一、英國裁判官ノ地位附司法行政機關)
第四六號	〃 一三、六	英國裁判所構成論(二、英國ニ於ケル起訴官廳及辯護士ノ地位)
第四七號	〃 一三、六	瑞西國辯護士法

第四八號	大正一三、七	露西亞事情
第四九號	〃 一三、七	米國ノ刑罰制度
第五〇號	〃 一三、八	獨逸國民事訴訟改正律令
第五一號	〃 一三、八	英國裁判所構成論(三、下級裁判所ノ部 其一、治安裁判所)
第五二號	〃 一三、九	英國裁判所構成論(四、下級裁判所ノ部 其二、州裁判所及 檢屍官裁判所ノ組織)
第五三號	〃 一三、九	英國裁判所構成論(五、中央審トシテノ英國高等法院ノ組織 及權限)
第五四號	〃 一三、一〇	佛國商事裁判制度
第五五號	〃 一三、一〇	獨逸國ニ於ケル裁判所ノ組織及モ刑事手續ニ關スル法令
第五六號	〃 一三、一一	英國裁判所構成論(六、地方審トシテノ英國高等法院及其他 ノ上級裁判所ノ組織)
第五七號	〃 一三、一二	獨逸國勞務契約法草案及評論(附)佛國勞働法正文
第五八號	〃 一三、一二	米國少年裁判法

第五九號	大正一三、一二	英國裁判所構成論（七、英國ニ於ケル非訟事件裁判所、特種裁判所及仲裁裁判所ノ組織（附）裁判所相互ノ關係）
第六〇號	一四、一	不定期刑ノ言渡制度
第六一號	一四、一	改善不能性犯人ノ處遇
第六二號	一四、二	英蘭刑事訴訟法概観及巡回裁判所ニ於ケル訴訟記録
第六三號	一四、二	北米合衆國裁判制度（一、聯邦司法省ノ組織、職制及裁判制度）
第六四號	一四、三	獨逸國後見制度（前編）
第六五號	一四、三	獨逸國後見制度（後編）
第六六號	一四、四	刑ノ執行猶豫制度
第六七號	一四、四	假釋放
第六八號	一四、五	國際刑事學協會獨逸支部ニ於ケル行刑上ノ累進制度、宣誓セサル證人ノ處罰及ヒ不定期刑制度ニ關スル會議議事録
第六九號	一四、五	諸國刑法草案

第七〇號	大正一四、六	英國司法警察論
第七一號	一四、六	英國ニ於ケル少年犯罪者ニ對スル刑法上ノ處遇
第七二號	一四、七	司法行政上ヨリ見タル普國區裁判所ノ實務（第一編）
第七三號	一四、七	英國陪審ノ組織資格選定召集等ニ關スル省取調委員會報告書
第七四號	一四、八	（附）金山檢事宇野判事視察報告書
第七五號	一四、八	漢堡ニ於ケル常設仲裁裁判所
第七六號	一四、九	司法行政上ヨリ見タル普國區裁判所ノ實務（第二編）
第七七號	一四、九	獨逸國陪審裁判所記録（附）秋山檢事鈴木判事視察報告書
第七八號	一四、一〇	刑罰ニ關スル制度（其一）
第七九號	一四、一一	佛蘭西の政治組織（現代佛蘭西の政治、行政及ヒ司法制度の概観）
第八〇號	一四、一二	一九二五年獨逸刑法草案並ニ理由書（總則編）
第八一號	一五、一	刑罰に關する制度（其二）
		北米合衆國の刑事裁判（其一）

第八二號	大正一五、二	北米合衆國裁判制度(二、カリホルニヤ州ノ裁判制度)
第八三號	一五、三	北米合衆國ノ刑事裁判(其二)
第八四號	一五、四	一九二五年獨逸刑法草案並ニ理由書(各論篇)
第八五號	一五、五	陪審制度視察報告書集(附)ガルソン教授述陪審制度論
第八六號	一五、五	刑罰に關する制度(其三)
第八七號	一五、六	正義と貧民(其一)
第八八號	一五、七	正義と貧民(其二)
第八九號	一五、七	刑罰に關する制度(其四)
第九〇號	一五、八	刑罰に關する制度(其五)
第九一號	一五、八	英國に於ける警察裁判所
第九二號	一五、九	同法行政上より見たる普國區裁判所實務(第三篇)
第九三號	一五、九	刑罰に關する制度(其六)
第九四號	一五、一〇	英國陪審の組織資格選定召集等に關する省取調委員會報告書 第二卷(其一)

第九五號	大正一五、一〇	諸外國に於ける辯護士制度概観
第九六號	一五、一一	歐洲諸國に於ける上訴制度
第九七號	一五、一一	佛國裁判制度(其一)
第九八號	一五、一二	佛國裁判制度(地方裁判所、控訴院、大審院の組織及權限)
第九九號	一五、一二	國際行刑會議報告書集(一)
第一〇〇號	昭和二、一	國際行刑會議報告書集(二)
第一〇一號	二、一	公の秩序に對する犯罪に關する比較法論(其一)
第一〇二號	二、二	公の秩序に對する犯罪に關する比較法論(其二)
第一〇三號	二、二	英國陪審の組織資格選定召集等に關する省取調委員會報告書 第二卷(其二)
第一〇四號	二、三	司法に關する法制
第一〇五號	二、三	司法行政上より見たる普國區裁判所の實務(第四篇)
第一〇六號	二、四	司法行政上より見たる普國區裁判所の實務(第五篇)
第一〇七號	二、四	保安處分

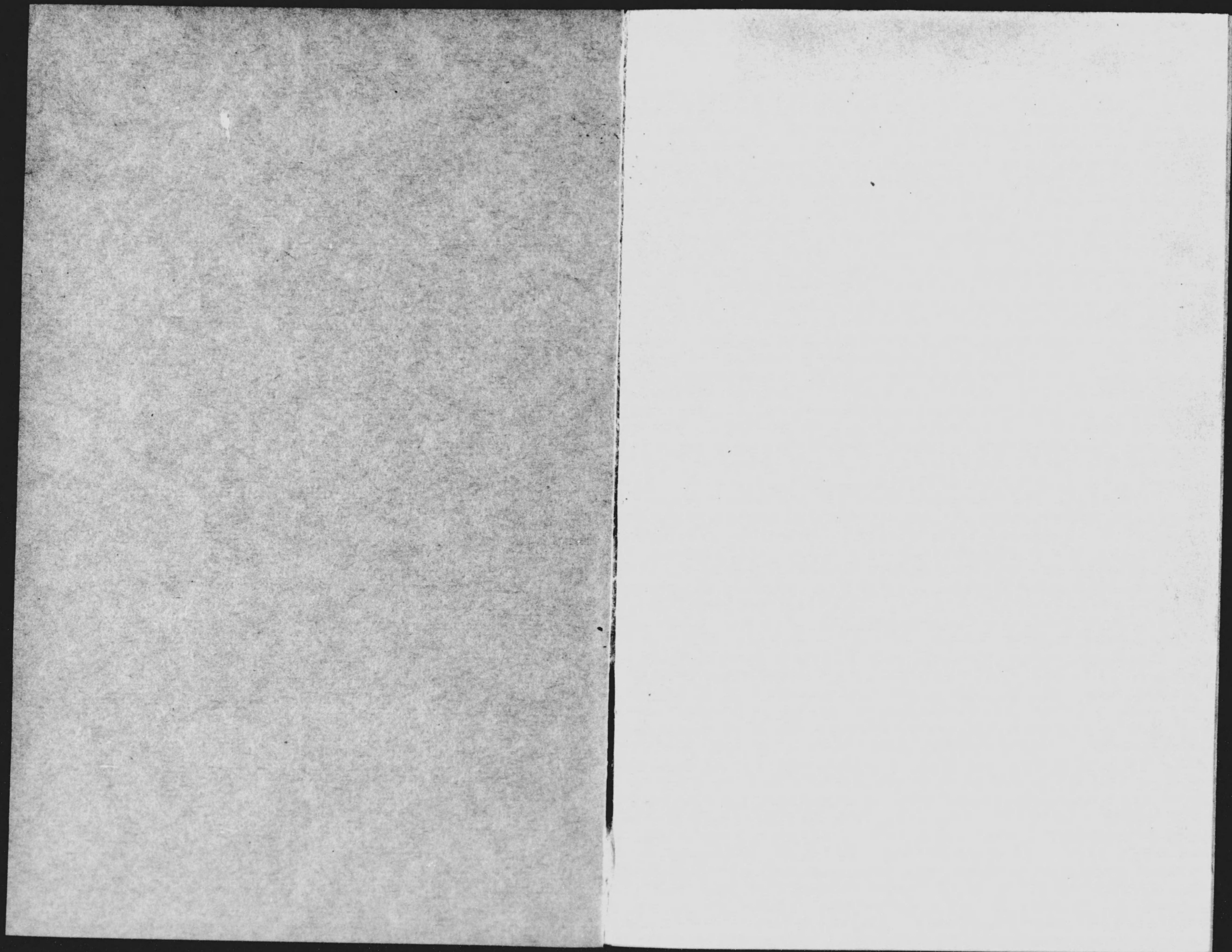
第一〇八號	昭和	二、五	陪審裁判所に於ける發問（總則篇）
第一〇九號	〃	二、五	陪審裁判所に於ける發問（各論篇）
第一一〇號	〃	二、六	ケート・ウエプスター事件の陪審公判（英國著名裁判其一）
第一一一號	〃	二、六	單獨判官と司法官制
第一一二號	〃	二、七	國際行刑會議報告書集（三）
第一一三號	〃	二、七	國際行刑會議報告書集（四）
第一一四號	〃	二、八	佛國刑事裁判所の組織及び司法警察
第一一五號	〃	二、八	チエツコ・スロヴァキア共和國の刑法典草案及同理由書（總則篇）
第一一六號	〃	二、九	米國の勞働法制（上）
第一一七號	〃	二、九	米國の勞働法制（下）
第一一八號	〃	二、一〇	刑法草案集（端西一九一八年案、埃一九二二年案、伊一九二一年案）
第一一九號	〃	二、一〇	チエツコスロヴァキア共和國の刑法典草案及同理由書（各論篇）

第一二〇號	昭和	二、一	佛國陪審に於ける發問の方式とその判例
第一二一號	〃	二、一	賭博に關する調査
第一二二號	〃	二、二	佛國の檢察制度
第一二三號	〃	二、二	フレデリック・バイウォーター及エデイス・トムソン事件の陪審公判
第一二四號	〃	三、一	一九二七年獨逸刑法草案竝に理由書（總則篇）
第一二五號	〃	三、二	大逆罪に關する比較法制資料
第一二六號	〃	三、三	一九二七年獨逸刑法草案竝に理由書（各論篇）
第一二七號	〃	三、四	刑法改正に關する比較法制資料（前篇）
第一二八號	〃	三、五	刑法改正に關する比較法制資料（後篇）
第一二九號	〃	三、六	佛國裁判所の構成に關する法令
第一三〇號	〃	三、七	米國裁判所の組織及び訴訟手續
第一三一號	〃	三、九	ソヴィエット露西亞の法制（前篇）
第一三二號	〃	三、一〇	ソヴィエット露西亞の法制（後篇）

第一三三號	昭和 三、一一	限定責任能力者社會上危險なる精神病者及犯罪的常習飲酒者に對する處遇
第一三四號	三、一一	一九二七年伊太利刑法豫備草案
第一三五號	三、一二	治安判事論
第一三六號	四、一	各國政府の報告に據る私生子の地位に關する研究
第一三七號	四、二	刑の量定(前篇)
第一三八號	四、三	刑の量定(後篇)
第一三九號	四、四	佛に於ける家族制の變遷
第一四〇號	四、五	陪審裁判手續に關する問(前篇)
第一四一號	四、六	陪審裁判手續に關する問(後篇)
第一四二號	四、七	徳川禁令考後聚(第一帙)
第一四三號	四、八	獨逸司法制度(前篇)
第一四四號	四、九	獨逸司法制度(後篇)
第一四五號	四、一〇	ソヴィエット露西亞民法(前篇)

第一四六號	昭和 四、一一	ソヴィエット露西亞民法(後篇)
第一四七號	四、一二	アメリカ合衆國に於ける少年裁判所
第一四八號	五、一	ソヴィエット露西亞刑法
第一四九號	五、二	ソヴィエット露西亞 ^{裁判所構成法} 刑事訴訟法
第一五〇號	五、三	英米獨佛の手形法及小切手法





14.5
54

